

平成29年度の検討内容について

1. 検討手順

平成29年度は図1-1の手順で検討を行い、二次スクリーニング（候補エリアの抽出）、事業推進エリアの選定を行う。

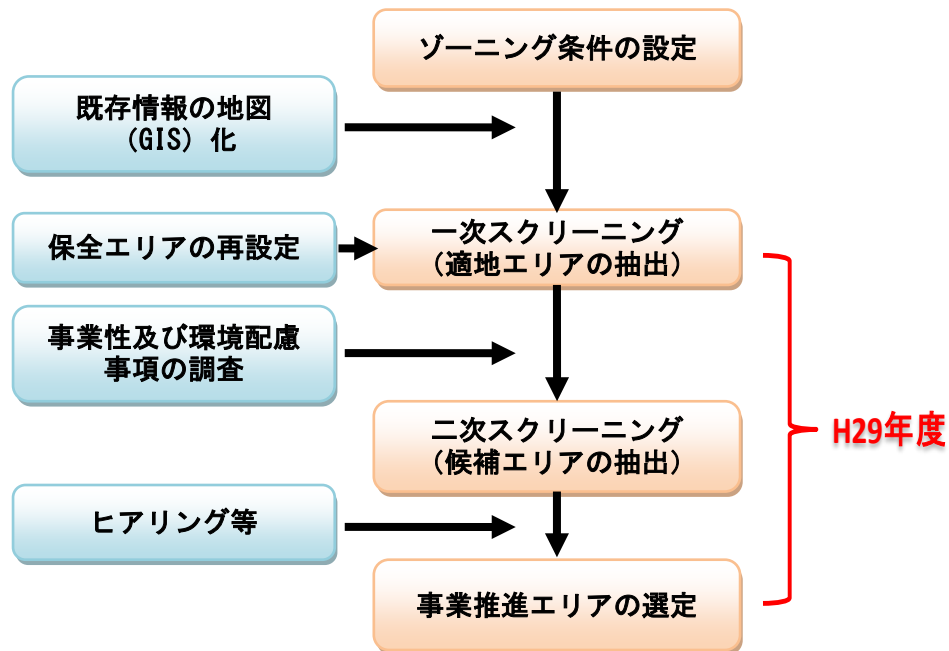


図1-1 平成29年度の検討手順

2. 検討内容

(1) 陸上風力発電

1) 「保全エリア」の再設定にあたっての検討

世界遺産候補の構成資産 及び 県立自然公園内の主要展望地 からの 眺望景観 について、詳細な調査分析を実施し、関係部局と十分な協議を行った上で、適切な範囲を「保全エリア」として追加することを検討する。

表2-1 保全エリアの再設定にあたっての調査（案）

項目	調査方法
「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産に係る世界遺産」候補の構成資産にかかわる眺望景観	景観への影響範囲を机上検討、現地調査を実施
県立自然公園内の主要展望地から 4.0km 以内の場所	

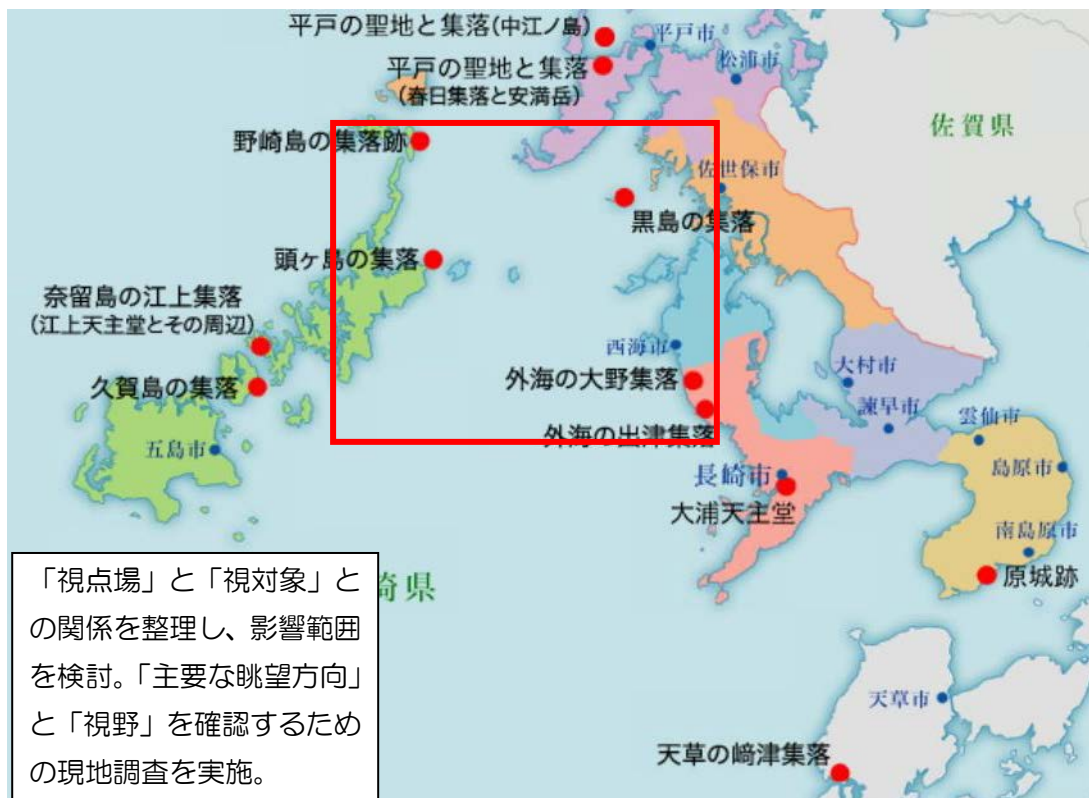


図 2-1 眺望景観に関する調査対象（世界遺産候補）

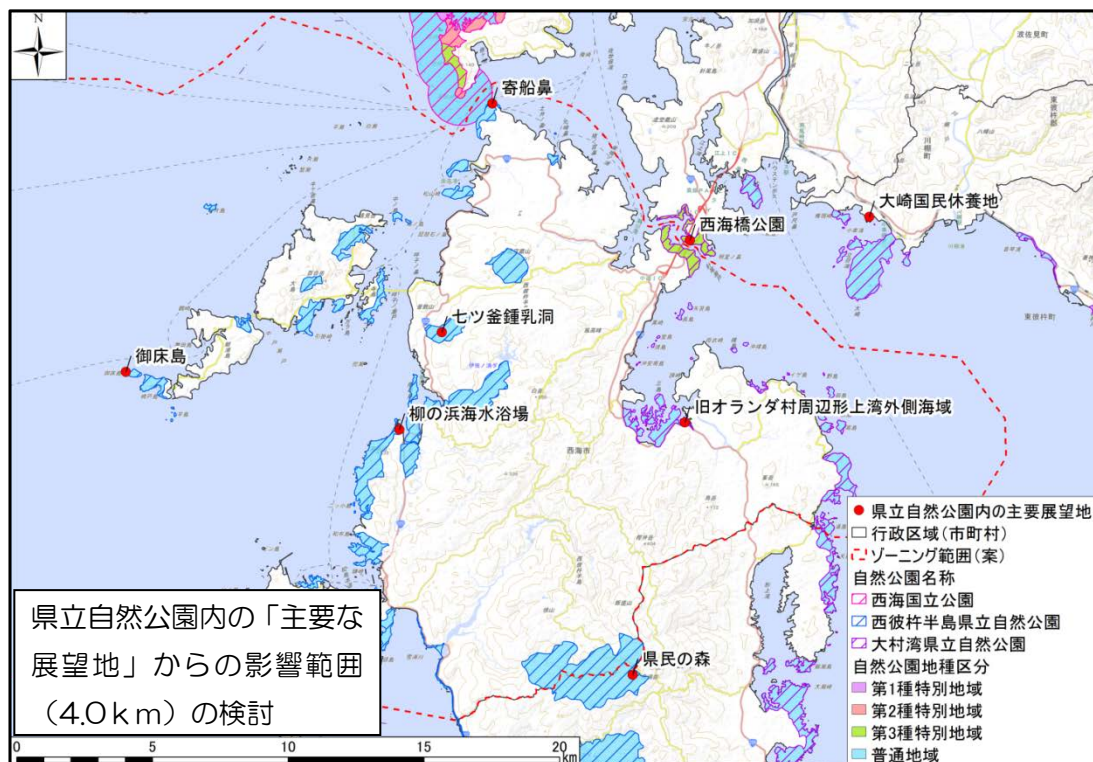


図 2-2 眺望景観に関する調査対象（県立自然公園内の主要展望地）（案）

2)「候補エリア」の抽出の進め方

- ・「候補エリア」の抽出に際しては、環境配慮及び事業性に関わる留意事項等に関して表 2-2 に示す調査を実施する。
- ・調査結果をもとに、1/2.5 万～1/5 万程度の図面を用いて、候補エリアの検討・抽出を行う。

表 2-2 陸上風力の候補エリアの抽出等の際して実施する調査

区分	項目	調査方法
環境配慮に関する留意事項	住居等、環境配慮施設からの距離	資料調査、ヒアリング
	景観資源、主要な眺望点	資料調査
	主な渡り鳥のルート	現地調査
	埋蔵文化財の分布状況	資料調査
事業性に関する留意事項	系統制約	九州電力へのヒアリング
	容量に空きのある送電線等からの距離	資料調査
	風車を輸送できる幹線道路からの距離	資料調査
	滑石や石炭採掘の鉱業権	資料調査
	土砂災害警戒区域	資料調査、ヒアリング
	森林施業計画	資料調査、ヒアリング
	国有林/保安林	ヒアリング
	保安林（民有林）	ヒアリング
	農地利用の見込みが低い耕作放棄地	資料調査、ヒアリング調査
	利用見込みが低い市有地	資料調査

(2) 洋上風力発電

1) 「保全エリア」の再設定にあたっての検討

世界遺産候補の構成資産からの眺望景観、漁場利用の状況、海上交通について、詳細な調査分析を実施し、関係部局と十分な協議を行った上で、適切な範囲を「保全エリア」として追加することを検討する。

表 2-3 保全エリア設定にあたっての調査（案）

項目	調査方法
「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産に係る世界遺産」候補の構成資産にかかわる眺望景観	景観への影響範囲を机上検討、現地調査を実施
漁場利用の状況（重要な漁場）	アンケート調査およびヒアリングを実施
海上交通	AIS（自動船舶識別装置）による航行船舶量、海難事故情報等の分析 ヒアリング

2) 「候補エリア」の抽出の進め方について

- ・「候補エリア」の抽出に際しては、環境配慮及び事業性に関わる留意事項について、表 2-4 に示す調査を実施する。
- ・調査結果をもとに、1/5 万～1/10 万程度の図面を用いて、候補エリアの検討・抽出を行う。

表 2-4 洋上風力の候補エリアの抽出等の際に実施する調査

区分	項目	調査方法
環境配慮に関する事項	藻場・干潟・サンゴ礁	資料調査
	景観資源、主要な眺望点	資料調査、現地調査
	海鳥の繁殖地	ヒアリング、資料調査
	主な渡り鳥のルート	現地調査
	漁場環境調査	現地調査（潜水調査）、資料調査
事業性に関する事項	年間平均風速（最新情報への更新）	資料調査(NEDO 洋上風況マップ)
	系統制約	九州電力へのヒアリング
	容量に空きのある送電線等からの距離	資料調査
	海底地形	現地調査
	海面利用（レジャー等）	ヒアリング



図 2-3 渡り鳥調査の現地調査実施地点（案）

■漁場環境調査

- ・自然岩礁および既設魚礁等を対象に潜水目視調査を実施。
- ・調査対象エリアごとの海域特性（魚介類・藻場の分布）を把握。
- ・洋上風力発電施設の漁業協調を検討するための基礎資料として利用

■調査内容

- ・魚類・底生動物等の分布状況
 - ・藻場の分布状況
 - ・基盤の状況（岩盤、礫、砂など）
 - ・既存魚礁の魚類蟄集状況
 - ・その他、磯焼け等の状況
- など



図 2-4 漁業環境調査（潜水調査）の実施イメージ

(3) 推奨する地域との共存及び地域振興策に向けた取り組み案の検討

地域との共存及び地域振興策については、資料調査、事業者等へのヒアリングを実施し、以下の内容を中心に具体案を検討する。

- ・ 持続的漁業の基礎情報として、海底地形・底質、漁場利用情報の漁業者への提供
- ・ ウィンドファームで取得する風況、潮流等のリアルタイム海況データの漁業者への提供
- ・ 風車施設の魚礁効果ならびに基礎と連携した魚礁設置や藻場造成による水産資源の増殖
- ・ 発電した電気を活用した電動漁船、養殖事業の導入による燃料費の軽減、収益の向上
- ・ 発電収益の一部の活用による水産資源回復や海域環境保全策の展開
- ・ 風力発電関連施設の建設に伴う道路・港湾・電力・情報通信網など社会基盤の整備
- ・ 発電設備のオペレーションやメンテナンスに係る事業所の誘致や就業機会の増大



図 2-5 海底地形情報等の漁業者への提供イメージ

3. 勉強会及び講演会

平成 29 年度は、協議会、成果報告会の開催に合わせて、地域振興や漁業協調の先進事例等に関する勉強会及び講演会を 2 回開催する。

4. 平成 29 年度の工程（案）

平成 29 年度の取り組みは表 4-1 の工程で実施する。

表 4-1 平成 29 年度の工程（案）

項目	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1 月-3 月	備考
一次スクリーニング案の パブリックコメント					3 月末～4 月末に 実施
資料調査および関係機関 へのヒアリング					環境配慮、事業 性に関する事項
アンケート調査およびヒ アリング調査 （漁場利用の状況）					
現地調査（渡り鳥）					
現地調査（景観）					
現地調査（漁場環境調査）					
保全エリアの再設定					
候補エリアの抽出					
事業推進エリアの選定					
地域振興・共栄策の検討					
ロードマップの検討					
分科会					
協議会					
ゾーニング計画（案）の パブリックコメント					
成果報告会					
勉強会、講演会					地域振興、漁業協調 など